

2017.6.7  
- 11

下北沢  
劇場小劇場

# 赤心の牡丹

東京宝塚歌劇団大劇場公演

作 奥泉光



東京シェイクスピア・カンパニー公演

# 恋のむだ骨

原作 ミンヘンクスタブ Love's Labour's Lost

脚本 奥泉光

演出 江戸馨

作曲・演奏 佐藤州!

シェイクスピアの戯曲に『恋の骨折損』というものがあるのを知ったのは、高校時代に読んだトーマス・マンの長編小説『ファウスト博士』のなかに登場したからで、シェンベルクをモデルにしたといわれる小説の主役、アドリアン・レーヴェルキューンが若き日に作曲する歌劇の材にしたのが『恋の骨折損』なのであった。それ以来、この戯曲のことはずっと気になっていて、しかし読んだり観たりする機会のないまま、マンの小説が好きだった流れから(?)、自分はこの也喜欢に違いないと勝手に思い込み人にも吹聴していたら、江戸馨が、だったら自由な翻訳をして台本にしてみないかというので、ついつい引き受けた。で、読んでみて驚いた。非常に馬鹿馬鹿しいのである。自分は呆れ、しかし嬉しくなった。世俗的で野心ながら浮世離れたこの愉快な恋愛喜劇は、著しく楽園的であり、悲惨な末路をたどる作曲家が謙謙と野心に溢れた青年時代にとりあげる題材にいかにふさわしく、自分がこれを好きだと考えた直感はずり正しかったのである。

十年前、もう若くはなかった自分はこの取り組み、自由な翻訳からさらに離れて、「リヤの三人娘」や「マクベス裁判」に続く、東京シェイクスピア・カンパニー「鏡の向こうのシェイクスピア」シリーズのひとつとして、当時世を賑わしていた考古学者の遺物探査事件などを題材に戯曲になった。いまでも自分は『恋の骨折損』をレーヴェルキューンが書いた架空の歌劇を離れて想うことはできないのだけれど馬鹿馬鹿しさの向こう側——鏡の向こう側——に広がる、浮遊するがごとく幸福感が虚構の音楽とともに舞台上に満ちるなら幸いである。 奥泉 光

## Cast (アウエイ順)



江戸馨



藤井由樹



かなたけのき



川久保州子



水本志穂(劇団民藝) 祐花



星和利(劇団AUN)



藤井由樹(劇団民藝) 心志



山下昇平



宇木泰徳



森由果

舞台監督: 中原和彦 舞台美術/チライラスト: 山下昇平 照明: 関嘉明 衣装縫製: 嘉本洋子  
制作: 藤井由樹(Office Spring) 制作協力: 菊地廣(K企画)/川井麻貴(seabose) web担当: 吉田史明 舞台写真: 長田史野

## Staff

日時・料金 全席自由席

6/7(水)	6/8(木)	6/9(金)	6/10(土)	6/11(日)
	14:00		14:00	14:00
19:30 ★夜割	19:30 ★夜割	19:30 ★夜割	19:00	

\*受付開始は開演1時間前、開場は30分前を予定しております。  
前売 ¥4,000 / 当日 ¥4,300 / 学生 ¥2,500  
【夜割】平日夜はお得な前売・当日 ¥3,700

会場 下北沢「劇」小劇場

東京都世田谷区北沢2-6-6 TEL: 03-3466-0020



4月23日発売

チケット予約・問合せ 東京シェイクスピア・カンパニー

Mail: tudorcats@yahoo.co.jp http://www.tokyoshakespeare.com Tel: 090-8048-5013 (予約受付時間: 平日13時~17時)

\*ご予約の際は日時、枚数、お名前、ご連絡先をお知らせください。\*未就学児のご入場はお断りしております。e-plusからも予約できます http://eplus.jp